

## 3度目のアイラ島へ（その1）佐伯 順弘（岐阜県）

## Travel planning

DAY1 15<sup>th</sup> AUG NGO→AUHDAY2 16<sup>th</sup> AUG AUH→MAN  
MAN→GLA

Stay HolydayInnExpress GLA

DAY3 17<sup>th</sup> AUG GLA→ILY

正月の台湾・高雄旅行を終えると、既に心は夏休みの旅行に向かっていた。4回目となるUK。アイラ島へは3回目のウィスキー研究の旅である。早速、Skyscannerを始め、多くのサイトで日々航空券をチェックし、6月には、航空券を確保した。さらに、アイラ島のホテルへメールして部屋を確保するなど（もちろん英語で）、着々と準備を進めていった。それほど英語が上達しているわけではないが、必要に迫られると、いくらか慣れてくるというものだ。

Etihad Airways EY-889

15/AUG 21:30 中部国際 (NGO)

16/AUG 06:15 アブダビ国際 (AUH)

Etihad Airways EY-21 | Airbus A330-200

乗り継ぎ1回 (AUH) 4h 30m

16/AUG 10:45 アブダビ国際 (AUH)

16/AUG 15:30 マンチェスター国際 (MAN)

乗り継ぎ1回 (MAN) 4h 45m

Etihad Airways EY-6072 | Saab 2000

16/AUG 20:15 マンチェスター国際 (MAN)

16/AUG 21:20 グラスゴー国際 (GLA)

復路合わせて¥145,280

BE6921 Loganair

17/AUG 08:30 Glasgow Intl.

17/AUG 09:15 Islay.

復路合わせてGBP 113.35

今回はすこし違う経路でUKに行こうと思い、中部国際→北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー→アイラという経路で向かった。いろいろな空港での乗継は全く苦ではないし、目的地だけではなく移動自体も楽しんでいるので今回のようなチケットになった。

マンチェスターか、マンチェスターユナイテッドがあるところだな、とかアブダビってどこだっけと調べると、アラブ首長国連邦UAEという7つの首長国が集まった連邦制国家だということ。その中にあるアブダビ首長国の首都は連邦首都も兼ねているとのこと。なるほどと、少しだけ賢くなった気がしたが、マンチェスターには1泊するものの、アブダビの街には出ることもない。いつか街の散策もしてみたいと思うが、優先順位はそれほど高くない。アブダビの順番が来るまで自分が生きていられるか自信はない。

そんなことを思いつつ、旅の準備をしながら、ついでに仕事もしているとそれほど待つこともなく夏休みになった。

## DAY1 (15AUG2017) 移動/名古屋→北京

1200 昼食 いつものリストにしたがってパッキング。長袖シャツ、ゴムぞうりは持たず。

名鉄新可児駅まで送ってもらう。

1514 発中部国際空港行 中部国際空港 1700 着

既に並びべきカウンターには長蛇の列。中国人が多い。北京経由なので当然。カウンターが開くのは1830のはずだったが、10分前倒して開いた。こういう融通の利かせ方はよらしい。乗継2回なのでチケットはボーディングパスは3枚。これでグラスゴーまで行けるはず。



1838 両替。JPY20137→GBP130 154.9¥/£

これでセキュリティチェック通って、イミグレ通って、飛行機に乗るだけなので、一気にお気楽極楽である。で、プレミアムラウンジでビールを飲み、出発前の至福の時間を過ごす。



1930 先ほどの多数の中国人により、セキュリティチェックとイミグレーションが混雑すると予想し、早めに移動するが、あっさりと通過できてしまう。ま、予想以上に時間がかかるのは困るが予想外に早く通過できるのは問題ない。出発1時間前までスタバで待つ。こういう時に、「空港に居ますよ、これから旅行ですよ、いいでしょ、素敵でしょ。」とFBに投稿しがちだが、それはかなりむかつくという記事を何かで読んだことがある。しかも、そういうことをするのは基本的におっさんであるとも。読んだ人々は「はいはい、それがどうした。うらやましいってほしいのか。痛い奴だなお前。」ぐらいは思うだろう。実は、過去にはよくやっていた。しかし、その記事を読んでからは極力避けるようにしている。そりゃ、軽くむかつくよね。でも、ついやってしまうかも。気をつけよう。そんなことを思いなが

ら、待っているとそろそろ出発1時間前だ。2040 ほぼ定刻に搭乗開始。2135 機体起動開始。2150take-off.

パキスタンとかと同じ方式だ。トイレはその国によって特徴があるので大変興味深い。食う寝る飲む出すは生物の基本なのでそれぞれの地域でそれぞれの生き方をしていることがよくわかる。ここは手洗い場も清潔でよかった。その後、洗顔、歯磨きをしてすっきり。



夜9時ですから、そりゃお腹もすきます。基本、安定飛行に移ったらすぐ機内食が配られるので特に問題なし。普通にいただいて、酒も飲んだら、映画を観ながらぼんやりしていると約3時間で北京着。2430 北京時間変更 2330。機内で待つ。多くの人が降りて行った。こんなに北京で降りるんだ。と思ったら当然のことながら、また同じくらい乗ってきた。日本時間では0時過ぎなので、当然眠い。知らない内に寝てしまっていた。



「GO SLEEP」という1時間 13USD で寝ることのできる施設があったが、すぐそばにベンチもたくさんあり、そこで寝ている人もいた。空いていたので、そこで旅の記録を書く。

## DAY2 (16AUG2017) 移動／

北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー

時間の感覚が消えているところに、朝食配給。ありがたかったです。

アブダビ時間に変更

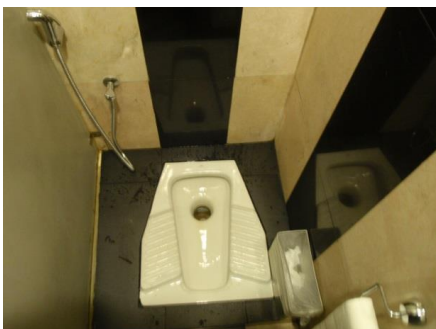
0530 (日本時間では 1030) アブダビ着。



今では日本でもコーヒーが販売されているCOSTAでターキーベーコンサンド、カプチーノ、水を摂取。45AED (アブダビ通貨) →1356JPY。結構なお値段である。スタバでもそんなもんか。カプチーノのココアが空っぽらしくて大変よい。やはり神は細部に宿るのだ。近くの両替屋の情報を見ると、セントレアでは 130GBP を得るのに 20137JPY を使ったが、ここでは 18518JPY で済む。余計なものを見てしまった。急に損した気分になってしまった。知らなければこんな思いをすることもなかったはずだ。結局人間は事実ではなく、認識で生きているので、幸せだと思っていれば客観的にどれだけ不幸でも全く問題ないのである。途中、スマホと iPod の充電を済ませ、搭乗ゲートに向かう。30 分立たない内に搭乗開始。



乗り継ぎのセキュリティーチェックを受ける。なんと、リングノートの金属部分が反応してしまう。大して問題にはならなかったがやや恥ずかしかった。さて、乗継は4時間ほど。長いようでそれほど長いわけではない。まず周囲探索。



トイレ (ホースシャワーのウォシュレット?)。そして、この個室は入ってきたドアに向かって座る方式。



アブダビの朝日はかなり強めでまぶしい。(つづく)